

株式会社 ゼルコバドリーム



1 現在の経営状況等

(1) 経営理念, キャッチフレーズ等

- 社名の由来
ゼルコバは英語で「けやき」という意味であり、牧場のある蔵王には多くのけやきが自生。けやきは寿命が長く、大きいものは30mにもなります。枝は放射状に広がる特徴があり、秋の紅葉が美しく、そんなけやきのように風土に根ざし広がりのある活動をしていける夢のある会社を目指す思いを込めて「ゼルコバドリーム」と名付けました。
- 経営理念
地域密着で安全・安心な製品の提供、環境保全型を意識した生産
- 経営目標
産牛の増頭による生乳の増産、飼料コスト低減のための自給飼料の増産、自社生乳のブランド化に向けた自社生乳を活かしたヨーグルトの製造

(2) 栽培技術の特長

「トータルカウコンフォート」という乳牛の快適性を追求した飼養管理を基本にクリーン&ドライな環境を乳牛に提供することに重点をおいた経営を行っている。また、牛群検定を活用し、綿密な個体管理及び徹底した衛生管理により、高乳量を維持しつつ高品質な生乳(糖分(乳糖4.6%)、脂肪分(3.7~4.3%)、無脂固形8.9%)を生産している。

飼料は自家配合TMR(Total Mixed Ration: 混合飼料)により、良質な飼養給与及び省力化を図っている。また、平成26年度からデントコーンの裏作として大麦を作付け開始し、現在は裏作としてイタリアンライグラスを作付けし、自給飼料率向上及びコスト削減を行っている。

ヨーグルト加工部門は、搾ってすぐの質の高い生乳とその良さを引き出す乳酸菌により低温でじっくり発酵させてしっとりなめらかなヨーグルトを製造している。

(3) 販売の特長

生乳は全量をみやぎの酪農農業協同組合へ出荷している。平成28年4月から自社生乳を活用したヨーグルトに加工販売を開始し、店舗販売のほかに、県内4か所(JA仙台たなばたけ、秋保ワイナリー、蔵王酪農センター、道の駅村田)にて委託販売を行っている。月に1、2回、県内の百貨店(藤崎)にて試食販売会を行っている。

(4) 経営組織の特長

一戸一人の組織形態であり、代表取締役が経営全体の総括と牛群管理、取締役の妻が経営及び財務、長女夫妻が搾乳、繁殖及び育成管理を担当している。また、平成27年度より自家生乳を使用したヨーグルト加工に取り組むため次女を新たに従業員として雇用し所得拡大に取り組んでいる。

(5) 労務管理の特長

ゆとりある暮らし、酪農を実現するため月1回のヘルパー利用及び臨時雇用を導入している。社会保険労務士のアドバイスを受け、就業規則の明確化、効率的・計画的な労務管理に努めている。

(6) 経営管理の特長

会計処理については、取締役の妻が担当し、パソコンを活用し経営管理を行っている。また、経営状況を把握し次年度の事業計画に活用している。

2 法人設立までの変遷

(1) 法人設立の動機, きっかけ

経営のプロフィール

経営概要

酪農
生乳部門 成牛: 68頭, 育成牛: 70頭(平成28年度)
年間生乳出荷量: 654t(平成28年度)
ヨーグルト加工部門(ヨーグルト工房:アトレイユ(平成28年4月27日オープン))
ヨーグルト(プレーン): 4t/年 ヨーグルト(ドリンク): 3t/年
飼料作付け面積: 10ha

主な施設・機械の保有

生乳部門
対尻式つなぎ牛舎1棟(40頭規模: 499.3㎡),
フリーストール牛舎1棟(48頭規模: 597.6㎡),
フリーバーン1棟(612㎡),
堆肥強制発酵処理施設1棟(448㎡), 牛床マット1式,
パイプライン1式, バルククーラー2式, パンククリーナー1式,
TMR用ミキサー1式, ダンプ1台, トラクター4台,
マニースプレッダ1台, フームスプレーヤー1台, コーンハーベスタ1台,
フォークリフト1台, ロールベラー1台, ラッピングマシン1台 他
ヨーグルト加工部門
工房面積 54.65㎡(受乳室, 検査室, 製造室, 菓子製造室, 店舗等)
製造室内設備 100リットル加温タンク, ホモジナイザー, パステライザー(殺菌機),
充填機, インキュベーター(発酵器)2台, 冷蔵庫(生乳用, 製品用)
※処理能力 1回あたり100リットル(プレーンタイプ450g・約200個,
プレーンタイプ250g・約380個, ドリンクタイプ180ml・約500本)

構成員等

役員(代表取締役, 取締役): 2名, 従業員(常時雇用): 2名, パート: 2名

法人設立年月日

平成26年1月6日

認定農業者認定年月日

平成26年3月27日

資本金

200万円

販売額

83,900,000円, 収入算入交付金等 100万円(経営所得安定対策等)(平成28年度)

役員名

代表取締役: 村上 利雄 取締役: 村上 智子

主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

生乳部門(畜産環境整備事業リース事業, 蔵王山麓畜公社営事業)
ヨーグルト加工部門(アグリビジネス経営基盤強化整備事業)

過去の表彰

平成14年: 日本酪農青年研究連盟 経営発表大会 農林水産大臣賞
平成24年及び平成25年: みやぎの酪農良質乳表彰 第1位

経営と家計の分離、雇用の導入及び事業内容拡大(ヨーグルト加工部門)による経営体質強化を図るため法人化を決意した。

(2) 法人化に至る経過等

代表取締役は、昭和53年に宮城県農業短期大学を卒業後、就農。平成8年に経営継承。平成17年には長女の就農と同時にフリーストール牛舎及びアプレストパーラーの増設により規模拡大によりスケールメリットを発揮した酪農経営を行っている。平成25年より大河原農業改良普及センターの支援、宮城県担い手育成総合支援協議会による法人設立に関するコンサルティングを活用しながら、平成26年1月6日に「株式会社ゼルコバドリーム」の設立に至った。

(3) 法人化後の評価(良かった点等)

新規部門(ヨーグルト加工部門)の導入が行えた。取引上の信用力が向上し、商品取引が円滑に行えた。経営と家計が分離され、経営管理が農業経営として明確となった。雇用が円滑に行えた。

3 今後、将来に向けてのビジョン等(現時点)

(1) 将来ビジョンと経営戦略等

将来、搾乳頭数を100頭まで増頭し、1頭当たりの乳量11,000kgを目指すとともに生乳部門及びヨーグルト加工部門あわせて1億円を目指す。乳製品製造の新たな取組により、若い後継者が夢を持てる経営体を目指す。牛の顔、人の顔が見える製品づくり、牧場の思いが詰まったヨーグルトの生産を目指す。

(2) 達成に向けた課題及び取り組み状況

生乳部門については、現状の生産体制に満足せず、今後も高いレベルを目指し生産を行う。ヨーグルト加工部門については、愛情を込めて生産した生乳を使用

した乳製品をその思いを消費者に直接届けることで、酪農家が取り組む6次産業化の先進事例として新たな分野を開拓する。

(調査: 大河原農業改良普及センター)

略図



株式会社 ゼルコバドリーム

〒989-0841 遠刈田郡蔵王町小村崎原東7
TEL 0224-33-3909 (FAX兼用)
URL <http://zolkova-dream.jp>
E-mail info@zolkova-drem.jp

視察受入条件

受入可(要相談)
酪農教育ファーム認証牧場(小学生や中学生等への酪農体験の場)